

背の低い植物(シバナ)が不利になって負けていくためと予想される。また、シバナがシオクグ、ヨシと混生していると報告されている(宮脇, 1988)のは、シオクグ、ヨシが上を完全に被い隠さないため、光条件が悪化しないためだと予想できる。

おわりに

種子数が多く、発芽率も高いシバナがなぜ絶滅の危険性のある植物に指定されるにいったか? それは発芽、生育等の条件の整っている塩沼地の著しい減少にほかならないと思われる。わずかに残っている塩沼地を守ることがシバナ等塩沼地植物を保護することになる。

本研究は兵庫教育大学の修士論文の一部である。研究にあたって多くの示唆ある助言をいただいた兵庫教育大学の山田卓三教授、ならびに神戸大学角野康郎助教授に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

Clarke, L.D & Hannon, N.J., 1969. The Mangrove Swamp and Salt Marsh Communities of the Sydney District. *J. Ecol.*

58 : 351-369.

Clarke, L.D & Hannon, N.J., 1970. The Mangrove Swamp and Salt Marsh Communities of the Sydney District. *J. Ecol.* 59 : 535-553.

Ginsburg, R.N. and Lowenstam, H.A., 1958. The Influence of Marine Bottom Communities on the Depositional Environment of Sediments. *J. Geol.* 66 : 310-318.

奥山春季, 1960. 日本野外植物図譜. 2巻, 誠文堂新光社.

宮脇 昭, 1988. 日本植生誌 近畿. 至文堂.

宮脇 昭, 1977. 日本の植生. 学習研究社.

大滝末男・石戸 忠, 1980. 日本水生植物図鑑. 北隆館.

藤本義昭, 1976. 新兵庫の自然. 神戸新聞出版センター.

藤本義昭, 1983. 兵庫大百科辞典(上). 神戸新聞出版センター.

わが国における保護上重要な植物種および植物群落の研究委員会, 1989. わが国における保護上重要な植物種の現状. 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会.

○角野康郎著『日本水草図鑑』(文一総合出版, 1994年7月, viii+179p., 15,450円)

現時点での日本の水草研究の到達点を整理しておきたいと思いとめたものである。取り上げた種は狭義の水草約200種に限定されるが、これらの種については、自分のオリジナリティを出して、しっかりとまとめたつもりである。解説は、自分で調べた資料に基づくことを原則としており、無批判な孫引きはしていない。しかし、逆に、著者の限られた観察にこだわったため、思い違いはないかと不安の残るところもある。率直なところ、自分で長年調べてきて自信のあるグループもあれば、勉強の進んでいない不得意なグループもある。その結果、この著者にしてはじめて書けたと評価いただける部分があれば、心もとない筆の運びになっているところも出てくる。どこが弱いかは読者の方にもおわかりいただけるであろうが、自分でも今後の課題がはっきりした次第で、一層の勉強を進めたいと思う。

本書の構成は、見開きの解説2ページと写真2ページ

が対になった構成で、ほとんどの種について2枚以上の写真を掲載している。実際には、こういう写真があればわかりやすかったに違いないというものや、沈水植物の撮影などもっと工夫の余地はあったが、一人力で全ては果たせなかった。ほぼ全ての種に標本に基づく分布図を付けたことは、いちばん時間のかかった作業であるが、この図鑑でいちばん価値のある部分であるとひとそかに自負している。今回の標本調査であらたに判明した産地や、逆に疑問が生じた産地が少なくない。私の同定の誤りのために、間違ったプロットを打っているかもしれないが、それは標本の再検討によって訂正していただきたい。これこそ、標本にこだわった理由である。

本書は、今、何がわかっていて、何がわかっていないかを整理することがいちばんの目標だった。その目的は一応達成できたと思う、本書の随所で、今後の課題にふれているが、これらの問題の解決が次のステップである。

(角野 康郎)